

平成26年5月28日

「花まる学習会視察報告」

豊村貴司

1. はじめに

現在、武雄市では公教育の改革として、官民一体での教育システムの導入に動き出している。そこで民間のノウハウの導入として関東を中心に事業展開を行っている「花まる学習会」との連携が表明されており、今回、その花まる学習会について、現地での授業状況の見学、質疑応答などを市議団にて実施したので、その見学時の状況を中心に報告を行う。

2. 期日

平成26年5月21日

3. 場所

- ・浦和つくし幼稚園：小学1年生対象の授業と小学2年生対象の授業を見学。
- ・花まるグループ本部（北浦和）：本部スタッフとの質疑応答。

4. 授業見学時状況（主に高濱代表が行った1年生対象の授業を見学）

（1）授業構成（見学時状況）

- ・生徒：1グループ4から5名。計7グループが1つの教室で同時に授業を受ける。
- ・先生：高濱代表（主指導者）、各グループにサポート役のリーダーがそれぞれ1名配置。
上記以外に全体の状況把握で1名が子ども達の様子をチェック。
- ・教材：算数や国語、四字熟語などのオリジナル教材、パズル、立体パズル などを使用。
- ・展開：高濱代表の指示により1コマが5分前後で次々に展開していく。
四字熟語音読→パズル→朗読→立体パズル→書き取り→計算・・・など

（2）様子・気づき

① 生徒の様子

- ・集中力が高い
一番に気づいたこと。あまりよそ見をせず先生及び学習に集中して向き合っている。
- ・学習への意識が高い
次々に内容が展開していても、しっかりとその都度、取り組んでいる。
- ・積極的行動
声を出したり、手を上げたりなどが活発に行われていた。このことは、後に実際に子どもが通う保護者から聞いたが、通う前は学校でまったく手を上げないと先生から言われていたのが、通い始めて手を上げるようになったと言われたということも同様と思う。
- ・出来たことを楽しんでいる、表情が明るい
内容が展開していく中でも、問題を解けた時は、生徒それぞれが手を上げて「できた！」と声を出している。また、先生もそれに対しその都度ほめている。
- ・姿勢がいい
先生やリーダーからの声掛けもあり、姿勢を正すことを意識している。
- ・周りへの応援
問題を出来ていないお友達や周りのグループへの応援が全体に見られた。

② 先生・リーダーの様子

- ・生徒を注目させる・集中させる手法
教材を額に置く、掛け声や動作などの先生と生徒のキャッチボールなど、生徒の意識を一点に集める手法が随所に見られた。
- ・ほめる
問題が出来たとき、姿勢がいいとき、周りを応援しているときなど、ほめることが多く見られた。
- ・見守り
各グループのリーダーは常に子ども達の背後を動き回り見守り、サポートを広く行っている。
- ・生徒と同じ気持ち
時に問題のレベルを上げたりしていたが、その際に生徒と同じ気持ちで「出来なくても当たり前」のようなことを指導者は言葉にし、問題を解く中でヒントを与え、それが出来たときにしっかりほめる。このように生徒と同じ気持ちでの発言が時々見られた。
- ・姿勢指導
姿勢を正すことの指導が多く見られた。
- ・余り時間を作らない
問題が早く出来た生徒は隣のお友達や他のグループを応援するようになっており、そのことによって、早く問題が出来た後の余り時間で集中、学習への意識が途切れないようにしてあった。
- ・五感
声掛けによる聴覚だけでなく、先生の動作や上述した教材を額に置いたり、生徒に真似をさせたり、体を動かさせたりと、様々な感覚によって生徒の意識を高めるようにされていた。
- ・達成感
ゲーム的要素や遊び要素を取り入れることで飽きさせない、自然と取り組みたいと思わせるようにしてあり、その中で行い、またほめられたり、体で表現することで、生徒に達成感をしっかり体感してもらうようにしている。

③ 授業全体としての様子

- ・先生と生徒のキャッチボールが常に行われていた。
- ・授業が次々に展開していても、子ども達の混乱の様子や、逆についていけずに意欲が低下するという生徒の様子はなかった。
- ・出来たということ、達成感を生徒個々が体感していると感じた。
- ・全体で見ると、全員が声をだし、体を動かしているが、そのテンションによって歩き回ったり、席を立ったりという生徒はいなかった。

5. 意見交換

- ・花まる学習会は学力向上を目指したのではなく、学力向上を目指す生徒については同グループのスクールFCというクラスを受けるように保護者に説明している。
- ・達成感を感じながら、学ぶことの楽しさを自然と感じ、それが継続しての学習につながるよう考えられている。
- ・見学時はグループにサポート役のリーダーがいての授業であったが、先生が一人で言う授業の方法もあると。現在、長野県の北相木小学校ですでに実施(市職員さんの見学あり報告を受ける)。

- ・武雄市との連携については、先生との意見交換を行いながら、まず授業を見ていただくこと、そして共に取り組んでいき、最終的には学校の先生のみで展開していくようになればと考えている。
- ・青空教室については、教室の中だけでなく、屋外に出て、その環境の中で色んな事に気づく、学習するという授業方法もある。
- ・野外体験については、現在サマースクールなど、花まる学習会で行っており、自然の中で川に飛び込んだり、親子で釣りをしたりと、普段体験していないことに一歩踏み込む勇気をもたせたり、自然の中で考え、遊ぶということを行っている。

6. 所感

- ① 今回、小グループでサポート役のリーダーがそれぞれにいる中での授業見学であり、そこでは子ども達への見守り、サポートが徹底されているのが分かった。逆に、リーダーがいない指導者のみで行う方法もあり、実際に長野県の北相木小学校で花まる学習会の手法を用いた授業が学校の先生で行われているということ。このことについては、市の職員さんも視察に行かれていることからその報告も受けたいと思う。今回は、実際に代表である高濱氏の授業を見学でき、高濱氏含め、本部スタッフと意見交換できたことはよかった。
- ② 前項でも記載したように、学力向上を狙ったものではないということは、見学においてもわかり、子ども達の能力を引き出す、また学ぶこと、知ることの喜びを体感し、今後につながるようにしているように思った(話しにより、低学年や高学年などで手法が異なってくる部分あるということで、子ども達の成長過程で、それが将来につながるように組み立てられている)。こういったことにより、子ども達の積極性を引き出し、学ぶことへの抵抗をなくし、それが継続されていくことで、結果としてそれが学力向上につながっていくのだろうと思う。
- ③ 私は全体と子ども達個々の両方の視点で見学。一見、全体でみると、声を出し、騒がしい、ハイテンション、逆にクラス内がバラバラにならないかと捉えてしまうが、実際に見てみると子ども達の集中している様子、クラスが一体となっている様子がわかった。

子ども達個々においても、指導者が声をだし、それに合わせて子ども達個々が動いていることから、子ども達は一対一で指導者と向き合っていた。そのことによって子ども達が一人ひとり指導者に、また学習向き合っていた。

また、ついていけないような子どもがいないか、その点でも注目した。声を出す、手を上げるなどについて程度はそれぞれで違いはあった。時には動作をしてなかったり、声を出していない子どもも時々あり、その子の様子もしばらくみていたが、それはついていけないという感じではなく、動作を行っていない時間も短時間であり、終始ついていけない、笑顔がない、声を出していない、学習への参加をしないという子どもはいなかった。これは、短時間で学習内容が変化していき、道具をつかったり、指導者とのコミュニケーションがあったり、またほめられるということなどが、飽きさせないというより、やりたいという気持ちに子ども達をしているからではと思う。

武雄市での導入では、この花まる学習会の手法は朝の短時間での導入を検討されている。つまり、朝から帰るまで、ずっとこの手法で授業が行われるわけではない。朝の短時間で手法を導入し、子ども達の意欲を高め1時限目からの学習につなげていくということである。また、1時限目からの学習においても、場面により取り入れられることも検討されており、効果的に行われたらと思う。何より一番大事なことは、子ども達が自然と学習に向き合え、学びたいと思える状況にあることだと思う。今回の見学では一場面ではあるが、そのような様子が見えた。

- ④ 野外体験、青空教室については、その方法などについて検討されていく。特に野外体験については、子ども達に踏み込む勇気をもたらし、それが実社会にも生かされるように考えられている面もある。また、そこに異学年交流ということを経絡導入を考えていかれる。ただし、意見交換でも出たが、通常花まる学習会で行われている野外体験のひとつ「サマースクール」という形を授業の一環で行うことが可能なのかという点も課題としてあり、授業の中でというのが難しい場合の野外体験の方法は今後の検討となる。

授業として行うのは青空教室として、時間の範囲(例えば2時限分)での屋外での学習が中心となることもあると思う。その青空教室では、教室外に出て、その環境下で子ども達同志話し合ったり、考えたり、物事を発見したりと、そのようなことが行われるようであり、場合によっては、この青空教室を異学年で交流しながら行うということもできるのかもしれない。

野外体験については、現在も武雄市では、わんぱくスクールや遊等生道場などでの活動もあるが、昔は各公民館単位で子どもクラブでキャンプをしたり海水浴をしたりしながら、その地域の子供達、異学年、また大人、じいちゃん・ばあちゃん達とも交流をしながら野外体験などが当たり前のように行われていた。それが減少(なくなっている)していることで考えると、野外体験については各公民館単位(子どもクラブ)に投げかけてみるのもいいのではないかと思う。そして花まる学習会としての野外体験を地区の子供、大人、じいちゃん・ばあちゃんの三世代で共に取り組むことで、日常の地域活動、地域のつながりにもつなげられるひとつになるのではと。

7. 今後

今後は議会での質疑応答などにより「メシが食える大人」を目指した、市の導入についての狙いなどをあらためて確認していくことになる。その中で、現在武雄市としてはモデル校での実施を行い、その後他校、地域への募集を行うということが検討されている。

今回の花まる学習会について、これまでも学校の先生も研修を重ねてこられており、そこへの導入ということで、その先生達との意見交換も大切であり、もちろん地域や保護者への説明、また授業の見学など、これらを広く行って意見をうかがい、また知っていただくことが必要であり、市もそれら説明会を行っていくということである。まず、それがあって各地域での導入が手上げ方式によって判断がされてくることから、開催だけでなく、今後の説明会や内容などについての情報発信という点も同時に必要である。今回は見学したことで気づいたことを中心に報告したが、今後一般質問等にて、ここで表記した以外の点などを確認していきたいと思う。

8. まとめ

- ① 花まる学習会の見学にて、子ども達の集中力、意欲の高さがみられた。
- ② 授業においては集中させる方法や学びたいと思わせる方法などが様々な場面で見られた。
- ③ 花まる学習会は学力の向上を目指したのではなく、達成感を体感し、それが学びたいという気持ちの継続につなげていることがわかり、結果として学力向上につながっていると思った。
- ④ 積極的行動や発見すること、達成感、一歩踏み出す勇気などが社会で生き抜く「メシが食える大人」につながるものと感じた。
- ⑤ 野外体験については、学校のカリキュラムとの整合が必要と思うが、私の案としては地域、子どもクラブへ募集を投げかけ、そこでの活動という方法も考える。
- ⑥ 武雄市では今後、武雄市の目的とするところ、花まる学習会について、今後の導入方法の保護者、先生、地域、子ども達への説明会、そして実際の授業風景などの見学会などを行っていき、そのものについて知ってもらい、今後の手上げ時の判断となるよう行っていくことが必要となる。
- ⑦ 説明会の開催や内容などについての情報発信も同時に必要と考える。